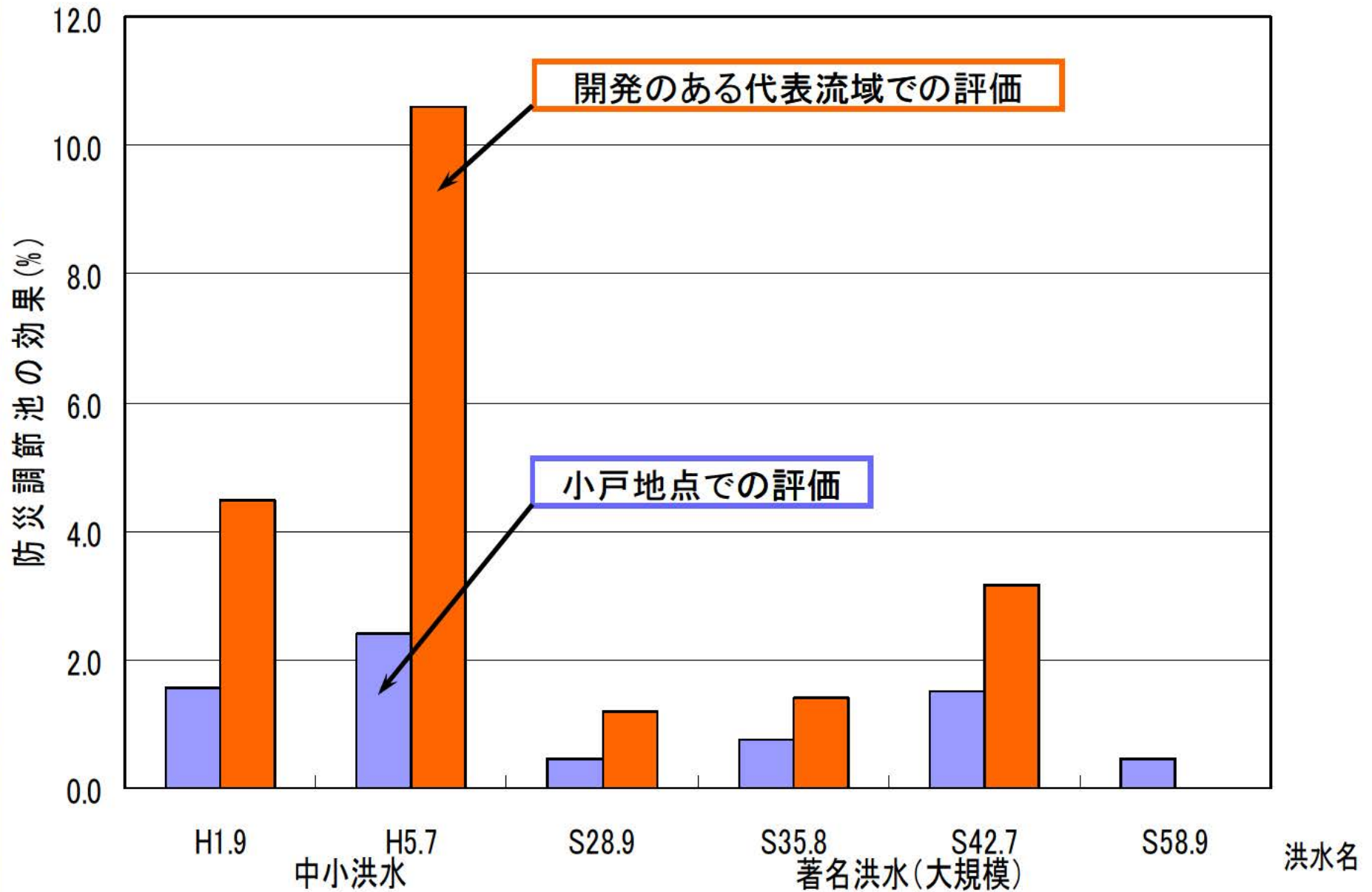


防災調節池の効果の比較



1.2 総合治水対策の評価

◆課題◆

これまでの総合治水対策事業は、

- ・下流河道改修が実施されるまでの緊急かつ暫定的なもの
- ・小戸上流域のみを対象に保水・遊水機能を確保してきた



- ・恒久的な対策として考えることが必要
- ・小戸下流において都市水害対策の必要性



1.2 総合治水対策の評価

◆課題◆

これまでの総合治水対策事業は、

- ・下流河道改修が実施されるまでの緊急かつ暫定的なもの
- ・小戸上流域のみを対象に保水・遊水機能を確保してきた



- ・恒久的な対策として考えることが必要
- ・小戸下流において都市水害対策の必要性

H6.9豪雨と近年の都市型水害(東海豪雨、福岡豪雨)

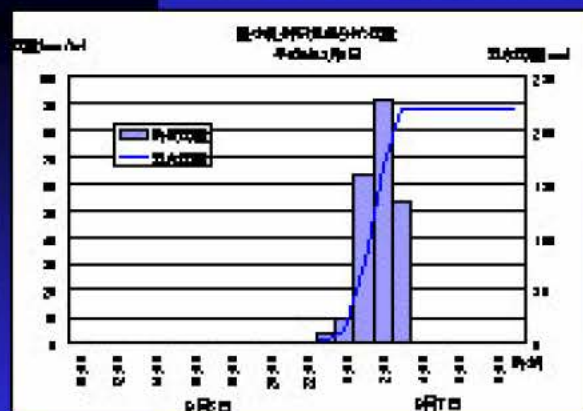
H6.9豪雨での浸水被害状況
(大阪伊丹空港前道路)
(右に見えるのがターミナル)



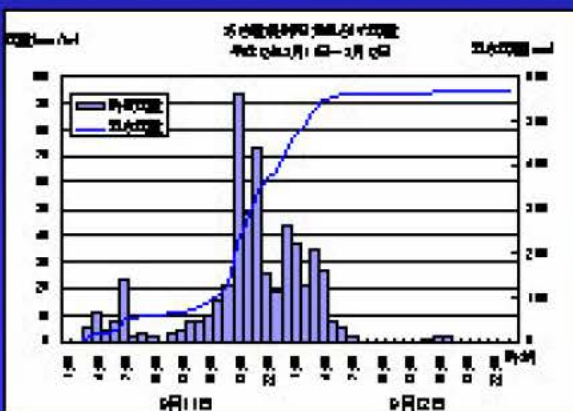
東海豪雨(H12.9)での浸水被害状況(西枇杷島地区)



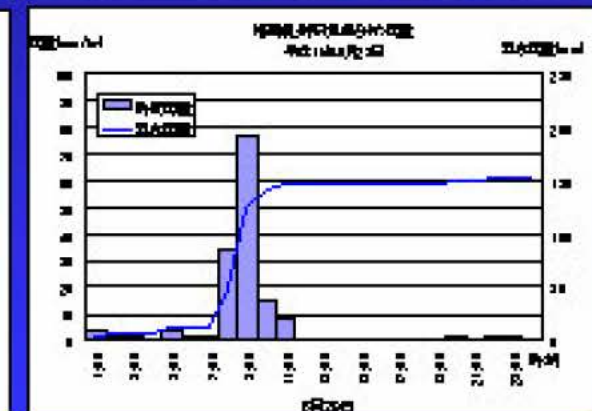
福岡豪雨(H11.6)での浸水被害状況(博多駅周辺)



H6.9豪雨での豊中雨量観測所の
ハイエトグラフ
最大時間雨量 91mm/hr
最大3時間雨量 207mm/3hr
総雨量 221mm(1日)



東海豪雨での名古屋雨量観測所のハイエトグラフ
最大時間雨量 93mm/hr
最大3時間雨量 214mm/3hr
総雨量 567mm(2日)



福岡豪雨での福岡雨量観測所のハイエトグラフ
最大時間雨量 77mm/hr
最大3時間雨量 126mm/3hr
総雨量 153mm(2日)

■ 第7回猪名川部会

概要

1. 総合治水対策について

2. 保水能力について

3. 猪名川の治水の現状

2. 保水能力について

2.1 開発に伴う流出増の要因

① 山林→市街化

流域保水能力の減少により降雨損失量が小さくなる

② 市街化率の増大

洪水到達時間が短くなる(流出が早くなる)ことによりピーク流量が大きくなる

*) その他河川改修による氾濫貯留効果の減少があげられる

開発に伴う流出増

開発前



流域に降った雨は地中に浸透し、ゆっくりと河川に流れ出します。

開発後



流域に降った雨はすぐに流れ出し、低地部で浸水被害が生じる恐れがあります。

2. 保水能力について

2.1 開発に伴う流出増の要因

① 山林→市街化

流域保水能力の減少により降雨損失量が小さくなる

② 市街化率の増大

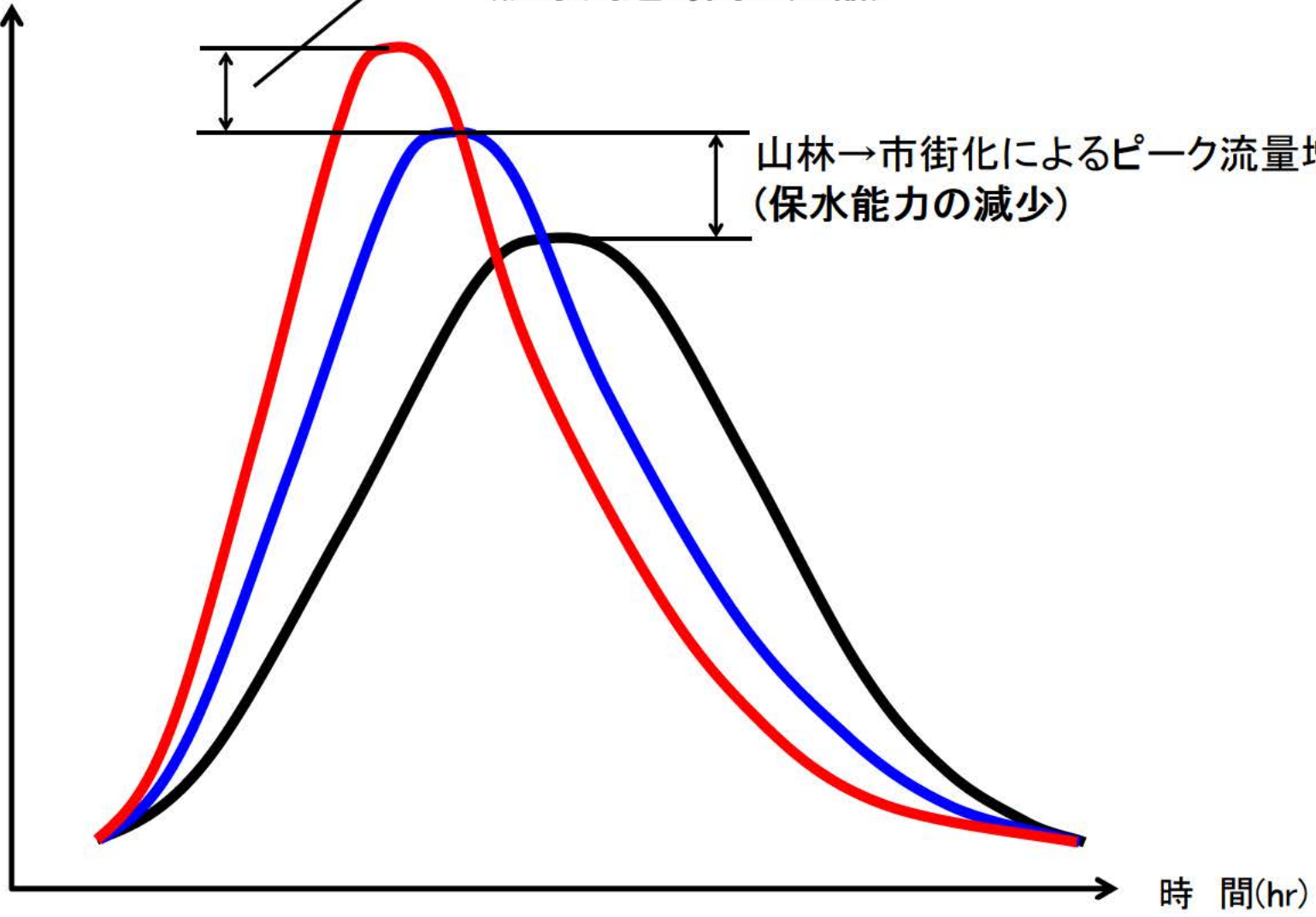
洪水到達時間が短くなる(流出が早くなる)ことによりピーク流量が大きくなる

*) その他河川改修による氾濫貯留効果の減少があげられる

流量
(m³/s)

市街化率の増大によるピーク流量増
(洪水到達時間の短縮)

山林→市街化によるピーク流量増
(保水能力の減少)



下流地点に到達する流出量の変化(模式図)